



地域移行通信

第52号 令和7年8月発行

世田谷区 自立支援協議会 地域移行部会



この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。



＜世田谷区自立支援協議会地域移行部会＞
精神科病院に入院している方の地域移行に向け、
関係機関との情報交換や支援のあり方、課題への
対応等の検討を行っています。



令和6年度の地域移行部会運営会議では…

- 精神科病院に入院している方の地域移行について、**現状の課題を改めて見つめ直し、今後の活動の方向性について議論を行いました。**
- これまでの地域移行部会では、医療関係者、ケアマネージャー、相談支援専門員、精神障害の当事者など、**様々な立場の方々を対象としたイベントを開催し、地域移行支援への関心を高めてきました。**
- 令和6年度は、「病院との関係性」や「グループホーム選びの難しさ」などのテーマをもとに意見交換を行い、**見えてきた課題を自立支援協議会への提言としてまとめました。**
- また、地域移行部会として今後どのような取り組みができるかについても検討を進め、少しずつ方向性が明確になってきています。
- 地域移行部会の活動目的や課題を整理し、**議論の時間を重視したことで、専門部会としての役割を再確認する機会**となりました。

自立支援協議会運営会議（令和6年12月13日）へ 提言書を提出しました！



提言

- 障害のある方が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、生活訓練やグループホーム、アパートなどの暮らしの場を自分で選べるような支援体制を充実させてほしい。
- 65歳で原則として優先的に介護保険に切り替わるのではなく、一人ひとりの状況に応じて、障害福祉サービスを柔軟に選べる仕組みを検討してほしい。
- “心のバリアフリー”の意識が社会に広がるような取り組みを進めてほしい。
障害のある方を雇用することを前提とした求人が、当たり前になるような社会づくりを目指してほしい。

今後、地域移行部会として取り組んでいきたいこと

課題整理と対応策の検討の中で、「医療と福祉で、地域移行に関する視点やアセスメントに違いがある」という意見が多くあがりました。

そこで今後は、医療と福祉の両者がお互いの考え方や視点の違いを共有できるよう、「精神科病院との話し合いの場」を設けることを目指しています。

この取り組みにより、医療と福祉の連携をさらに深め、精神科病院に入院している方が安心して地域へ移行できるよう、支援のあり方や課題について検討していきます。